

丸亀で会いましょう

国際化…交流から理解、そして多文化共生へ



イサスクンさん ベルナルドさん

バス地方の美しいリゾート地、サン・セバスティアンの盆栽研修生との交流では、文化の違いを楽しみ、共有する課題を発見しました。

古い歴史と文化ゆえ「国家と文化圏」という言語・文化・民族の問題を抱える、ヨーロッパ事情は日本人には計り知れませんが、丸亀と同じような社会問題も生じています。バスの子育て事情、働く男女の賃金格差問題、家庭の様子など、文化や習慣の違いを理解すると、遠い国でも同じような深刻化する少子化の問題や男女共同参画の課題を抱えていると実感できました。お二人の家庭がともに自宅での乳幼児預かり保育に関わっているのは、ただの偶然でしょうか。姉妹都市の子育て支援は丸亀でも役に立つヒント満載。文化交流だけでは勿体ない。互いの良いところを学び合う国際化につながって欲しいものです。

情報網や交通網の発達で世界が近づいた今日、丸亀でも異文化に触れる機会はたくさんあります。違いを認め合い、尊重し合う多文化共生は「男女共同参画プランまるがめ」でも進める丸亀市のまちづくりの視点です。

バス地方の美しいリゾート地、サン・セバスティアンの盆栽研修生との交流では、文化の違いを楽しみ、共有する課題を発見しました。

古い歴史と文化ゆえ「国家と文化圏」という言語・文化・民族の問題を抱える、ヨーロッパ事情は日本人には計り知れませんが、丸亀と同じような社会問題も生じています。バスの子育て事情、働く男女の賃金格差問題、家庭の様子など、文化や習慣の違いを理解すると、遠い国でも同じような深刻化する少子化の問題や男女共同参画の課題を抱えていると実感できました。お二人の家庭がともに自宅での乳幼児預かり保育に関わっているのは、ただの偶然でしょうか。姉妹都市の子育て支援は丸亀でも役に立つヒント満載。文化交流だけでは勿体ない。互いの良いところを学び合う国際化につながって欲しいものです。

情報網や交通網の発達で世界が近づいた今日、丸亀でも異文化に触れる機会はたくさんあります。違いを認め合い、尊重し合う多文化共生は「男女共同参画プランまるがめ」でも進める丸亀市のまちづくりの視点です。

Information

講座

ウガンダの元子ども兵から教わったこと

講師 ● 鬼丸昌也氏 (テラ・ルネッサンス代表)
著書「ぼくは13歳 職業、兵士」

とき ● 2006年10月15日(日) 14:00~16:00

ところ ● ユープラザうたづ 視聴覚室

参加費 ● 前売り 高校生以下: 500円 おとな: 700円
当日 全て: 1000円

主催 ● NPO法人さぬきっずコムシアター
テラ☆ティーンズ(中高生が主体的に活動するチーム)

協力 ● さぬき笑顔ネットワーク

丸亀市では、平成22年度までの行動指針として「男女共同参画プランまるがめ」を策定しました。市ホームページなどでご覧になれます。「ダイジェスト版」は、コミュニティなどの公共施設に置いてあります。学習会などで、「ダイジェスト版」が必要でしたら、企画課男女共同参画室までご連絡ください。



映画上映会&トーク

映画

ダブルシフトーパパの子育て奮闘記

(スウェーデン大使館後援)

ママは子育てで8ヶ月目で疲労困ぱいしてノイローゼに。「今度はパパの番よ」と仕事に復帰してしまった。ところが職場の事情で育児休暇がとれない新米パパは大ピンチ。ダブルシフトな毎日がパパを追い詰めていくのだが…。

育児休業体験談/福井浩光さん
《大倉工業(株)総務部勤務》

とき ● 10月21日(土) 13:30~

ところ ● まなびらんど 3階ホール

※参加無料、託児あり
問い合わせ先/市企画課男女共同参画室 (24-8839)

編集後記

耳を覆いたくなるような信じられない凶悪な事件ばかり続く昨今です。子どもたちの自由は、どんどん奪われてしまっています。自然の中で思いっきり遊び、素敵な笑顔で輝く瞳の子どもたちを最近見たことがありますか？ 年2回、子どもたちと竹山に入り、「ひみつきづくり」の活動をしているのですが、1日遊びきった子どもたちは、それぞれ満足しきって帰っていきます。そんな自然体験が、非日常でしか味わえなくなってしまっていることを私たちおとなは、よぉ〜く考えてみなくちゃね！ (T)

ゆめネットワーク情報紙



城西小学校(平成16・17年度男女共同参画モデル校)の児童による「男女共同参画都市宣言」朗読



オープニング カメラコーラスの合演

男女がともに生き生きと暮らせるまちをめざして

丸亀市男女共同参画都市宣言記念講演会
3/19 ひまわりセンター

女房が宇宙を飛んだ

～女性の生き方、男女の絆～

講師の向井万起男さんの妻は、アジア初の女性宇宙飛行士の向井千秋さん。ユーモアあふれる楽しいお話の端々に、妻を大切に誇りに思われている気持ちが感じられました。

千秋さんが宇宙飛行士として訓練を受ける1年間、留学してともにアメリカに行った万起男さん。夢を実現させるために、厳しい訓練に耐えて努力している妻を間近で支え続ける生活の中で、家族として、かけがえのない人として、お互いの絆を深めていったこと。それでもご自身の人生観は大事に持ち続けていたことなどに共感を覚えました。

今はフランスと日本で、お二人は別々

の生活が続いているようですが、それぞれの生き方を尊重し思いやる夫婦のあり方には、学ぶところがたくさんありました。

